

大堤沼公園インクルーシブ化計画

宮城県仙台第三高等学校

1. 背景と目的

大堤沼公園は広い土地を持っているにもかかわらず、利用者やその存在を認知している人が少なく、有効活用されていないと考えた。

大堤沼公園をインクルーシブ公園にして三高周辺の鶴ヶ谷を活気づけたい



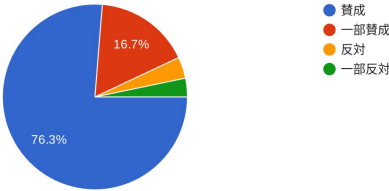
写真1 現在の大堤沼公園の様子

インクルーシブ公園とは、、、障がいのあるなし、子どもから大人まで、すべての人が利用できる公園のこと

4. アンケート

地域住民に大堤沼の現状についてのアンケートを行った。

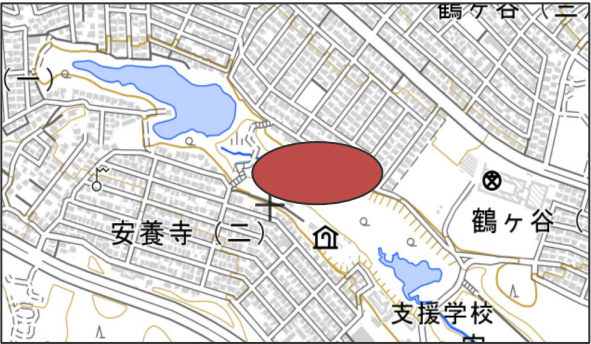
- 1) アンケートを1000部用意し約250人の回答をいただいた
- 2) 7割以上の方からの賛成をいただいた
- 3) 30代以下の回答数が少ない
- 4) 割合で見ると40代以下は50代以上と比べ大堤沼に行く頻度が低い
3, 4) より若い人ほど大堤沼公園の現状を知らない
- 5) 反対する人の多くは、インクルーシブ化による自然破壊を恐れている



2. 先行研究

この研究は先輩方から引き継いで行っている研究であるため、既にいくつか案が出ている

- ①新遊具・健康器具の設置
- ・中堤と下堤の間のスペースを開発する(下の図の赤い箇所)
- ・ユニバーサルデザインを活用した遊具の設置



- ②公園の設備の充実
- ・ベンチが一つしかないため、健康ベンチ設置で対応
- ・南側に空き地→駐車場(トイレも併設)
- ・現在は急な階段しか出入り口がない
→スロープの設置



写真2 公園唯一のベンチ

また、写真1のように雑草や木が多く生えている
→伐採や除草など地域の方の協力が必須

伐採した木が無駄にならないようにウッドチップに加工
→公園を囲むようにランニングコースを設置し、そこで活用

3. 大堤沼公園の現状と今後

大堤沼公園は写真1のように雑草や木が多く生えており、特に下堤はクズの葉というツル性の植物に覆われている。



写真3 クズの葉

今後このクズの葉が大堤沼公園全体に広がってしまう
→大堤沼公園の植物に巻きつき枯らしてしまう

※クズの葉の繁殖力は旺盛であり他の植物に覆いかぶさりながら生育範囲を広げる

5. 公園比較

	広さ(㎡)	年間来園者数(人)
大堤沼公園(宮城県)	8,000	10,000
善福寺公園(東京都)	8,000	1,200,000
石神井公園(東京都)	226,000	2,300,000
手賀沼公園(千葉県)	46,000	1,000,000

6. まとめ

- ・鶴ヶ谷地域の方のなかには自然破壊が起こると考えている方がいる
→→整備をすることの重要性と安全性を知ってもらう
- ・大堤沼公園と似ている公園で来園者数が違う
→→来園者を増やす可能性を秘めている

7. 今後の展望

- ・地域団体まると鶴ヶ谷さんとより連携し探究を進める
- ・鶴ヶ谷地域内で講演会を開く
- ・大堤沼の水質調査を行い水の安全性について調べる
- ・区の公園課に行き、大堤沼公園の現状について知ってもらう

参考文献 (12～14p 太字 : MSゴシック)

1) https://docs.google.com/presentation/d/lot1ZK89sUpuKPebrcc92C5xphdw_KNk8KZ7DjApUhR8/edit#slide=id.p [大堤沼インクルーシブ公園化計画探究49班]